

教育目標

自然を愛する心と人間尊重の精神を基盤に、未来を切り拓く力を育み、心身ともに健やかな児童の育成を図る。

○げんきな子

(健康・忍耐力・実践力)

○かんがえる子

(思考力・判断力・創造性・主体性)

○たすけあう子

(協調性・道徳性・責任感・情操)

人や事象との関わり合う経験を通して、心を耕し心を育み、  
知・徳・体のバランスのとれた子どもを育成する



目指す子どもの姿

I) 心身とも健康で、  
自尊感情が高く、  
最後まであきらめず  
に粘り強く、  
積極的に自分を発揮  
することができる子

II) 相手意識をもって  
分かってほしいと聞き、  
伝えようとして話し  
多面的に物事を見て、  
論理的に考え、  
豊かな創造力を  
発揮する子

III) 互いのよさ・個性を  
認め合い、  
尊重し合い  
仲良く助け合って  
協力する子

教育目標を達成するために目指す学校の姿

- (1) 児童の人権が尊重され、一人ひとりが大切にされている学校であること。
- (2) 児童の安全が守られている学校であること。
- (3) 児童自身が学び・成長を実感できる教育活動を実践する学校であること。
- (4) 「工夫」と「改善」への息吹ある学校であること。
- (5) 教員は自身の授業力・児童理解力・指導力を高めていくことに努め、保護者から信頼され・頼られる学校となるために尽力する教職員であること。
- (6) 服務事故を絶対に起こさない学校であること。
- (7) 学校・地域・保護者との三者協力によって子どもを育む学校であること。

## 本年度の教育活動を推進するための基本方針

- ①45分間の授業一つひとつの学習活動の充実を図り、児童の「学びの時間を大切にす意欲と態度」を育む。
  - 始業チャイムで授業を開始し、終業チャイムで授業を終える習慣を身に付ける。
  - 学習での振り返りや自己評価を行い、自身の学びの成果と成長を確認できるようにする。
- ②学級活動の計画的実施・充実を図る。⇒(R6校内研究として取り組む)
  - 「聞く(理解)力・伝える力・認め合う心」を育むため、「話し合いのできる児童の育成」を目指す。
- ③各教科等の学習活動において、「聞く力」「伝える力」「自身の考えを再構築できる力」「他者との合意形成を図る心と力」の育成をねらった活動場面を意図的に設定する。
- ④「熱中症対策」「感染症対策」等の健康・安全の確保に努める。
  - 健康・安全を第一とした判断のもと、学校生活・各行事・校外授業等での適切な対策を実施。
- ⑤5年生と6年生では「教科担任制」を実施する。
  - 教員の専門性を活かすとともに、教材研究等にかける力を集中させ、授業の質の向上を図る。
  - 担任以外の教員も授業で児童と関わることで、児童個々へ多面的に理解を深め、評価の適正を図る。
  - 児童にとって、「自分を見て理解してくれる教員」を一人でも多く増やし、児童にとっての安心感を高める。
- ⑥『心を耕す教育・心を育む教育』を推進する。(第二中学校区連携校での共通目標とする)
  - 「異学年の交流」「たてわり班活動」等を異学年・異年齢の交流機会を設定し、関わりの経験を豊かにする。
  - 道徳教育推進教員を中心に授業改善に努め、「道徳授業」を充実させる。
- ⑦校舎移転に伴う「緊急時の対応(初期対応・避難行動)」を身に付ける。
  - 児童に登下校中も含めた基本的な避難行動を理解させ、「情報収集力・判断力・自分の命の守る力」を身に付けさせる。
  - 避難訓練では、教職員の状況に応じた判断力、臨機応変に対応する力、児童を守る力を高めることもねらいに加えて訓練を企画し実施する。
- ⑧「中野区：子どもの権利に関わる条例」に関連し、児童自身が子どもの権利について理解を深められるように、実践的な学びの機会を設定する。
  - 子どもたちの発案によって使用する予算(20万円)について児童会や学級で話し合い、自己実現の場を設定する。
- ◎《新しい学校の構築が求められる「変化の時代》》様々な変化に対応できる子どもの育成  
アフターコロナ、教育活動へのICT機器の導入とその活用、校舎移転・新校舎建築、中野区型コミュニティ・スクールへの移行を見据えた地域・保護者との連携強化、等。本校は今、大きな変化の時、節目の時を迎えている。教員の働き方改革の推進による児童と向き合う時間の確保、保護者・PTA活動の負担軽減等を目指した効率化は、喫緊の課題である。継続して新しい教育活動・学校行事の在り方等を模索・検討・試行していく。
- ◎《中野本郷小の一員であることの自覚と誇り》本郷ファミリーとして  
中野本郷小学校で過ごす日々が児童一人ひとりの思い出として心に刻まれ、将来においての心の拠り所となつてほしいと願う。学校が「安心してできる確かな居場所である」、「自分は、確かに中野本郷小の一員である」との認識を深め、今まで培われてきた「郷の魂」の思いを継承し、児童個々の所属意識を高めるような働きかけをする。(安心感・自己存在感・所属意識・自己肯定感の醸成)